

第52回肺の健康世界会議

秩父宮妃記念結核予防世界賞 授賞式における総裁のおことば（和訳）



この度、秩父宮妃記念結核予防世界賞を贈呈できますことを、大変うれしく思います。また、ユニオンには、公益財団法人結核予防会の活動に長年にわたり協力いただき、感謝いたします。

本年の受賞者であるクヌート・レンロート教授は、世界保健機関（WHO）が結核について重要な政策を策定する際に、社会医学に基づいて、14年間にわたり指導力を発揮してこられました。そして現在は、カロリンスカ研究所で、研究や教育に携わっておられます。

レンロート教授は、社会医学に関して数多くの科学研究論文を発表してこられました。様々なコミュニティにおいて、社会的経済的条件の違いが健康や疾病とどのように関連しているかを分析した上で、どうすれば人々の苦しみを減らすことができるのかを検討しておられます。レンロート教授のご尽力により、多くの国々において、保健システムの改善や、結核を減少させるための政策・戦略が推進され、世界結核終息戦略の策定とその実行が進みました。このような大変優れた業績につきまして、心から敬意を表したいと思います。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の大流行は、私たち皆にとって大きな課題です。レンロート教授がこれからも健やかに過ごされ、引き続き社会的に立場の弱い人々のために結核対策を進め、世界中の若い研究者や政策関係者を育成し、地球規模での保健に関わる課題の解決に貢献されることを期待しております。

結核予防会とユニオンを代表して、クヌート・レンロート教授に、2021年秩父宮妃記念結核予防世界賞を贈呈いたします。

おめでとうございます。